

ロータリー米山記念奨学委員会

ロータリー米山記念奨学委員会 統轄委員長 一柳 達朗 (入間RC)

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来日本と自国、又は世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事が事業の使命です。平和を愛し、青少年に手をさしのべた日本のロータリーの父「米山梅吉氏」の功績を記念して、1952年12月、東京ロータリークラブが米山奨学制度を設立し、海外からの留学生を支援する国際奨学事業を始めました。1954年9月には奨学生第1号としてタイから来たソムチャードさんを受け入れ致しました。この事業はやがて日本全国のロータリークラブの共同事業として発展し、1967年7月に文部省(現・文部科学省)を主務官庁とする「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立されました。米山奨学制度が設立されてから70年以上の歴史を持ち、財団設立からもう少しで60年になります。この奨学金制度は世界に類を見ない日本ロータリー独自の他地区合同プログラムとなっております。

「米山シンボルマーク」

このマークの重なり合うハートは「ロータリアン」と「奨学生」です。手はそうした「心」を育てるという事業創設の願いが込められています。手はそうした「心」を生み出すと同時に当事業が全国のロータリアンの手で支えられている事を示しています。

「世話クラブとカウンセラー」

日本には約2,200余りのロータリークラブがあります。そのうちの1つのクラブが1人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山記念奨学生となった留学生は世話クラブの例会へ「出席する事」が義務付けられていて、そこで奨学金をクラブ会長から受け取ります。これは米山記念奨学会独自のシステムです。原則銀行口座等への振り込みは行いません。もう一つの特徴は「カウンセラー制度」です。奨学生1人に対し世話クラブのロータリアンの中から1人がカウンセラーとなります。カウンセラーは奨学生個人の個人的ケアにあたるアドバイザーです。

第2570地区の2025-2026学年度の米山記念奨学生は米山記念奨学会の決定により、継続奨学生5名、新奨学生11名の合計16名です。昨年度より2名の減少になってしまいました。今回、受け入れ奨学生の数よりも世話クラブ希望のクラブ様の方が多くなり、当委員会としては大変ありがたい事でありました。しかし、その受け入れご希望が叶う事が出来なかったクラブ様には大変申し訳なく思っております。

米山記念奨学生の人数はロータリアンの皆様からのご寄付によって2年後の受け入れ奨学生の数が決まります。寄付額が多くなれば、受け入れ奨学生の数も増えて行きます。第2570地区のロータリー米山記念奨学委員会ではロータリアンの皆様からの善意ある普通寄付+特別寄付で一人15,000円~20,000円のご寄付をお願い致したく存じます。ロータリアン皆様からのご寄付金増額のため、委員会として会員の皆様に米山記念奨学委員会の意義と活動をもう一度理解して頂くために色々と活動に力を入れて行って参りたいと思います。一年間ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。